

令和4(2022)年度 病害虫発生予報 第10号

令和5(2023)年1月20日
栃木県農業環境指導センター

天候を考慮した適切なハウス管理で、病害虫の発生を抑えましょう。

予想期間 1月下旬～2月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（平年比81%：ほ場率、平年比150%：株率）。(±)
・ 向こう1か月の気温は低く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・ 軟弱徒長すると発生しやすくなるので、温度管理やかん水を適切に行う。
・ 発生初期のうちに、アフェットフロアブル(RACコード F:7)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用する。

2 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（平年比95%：ほ場率、平年比167%：株率）。(±)
・ 向こう1か月の平均気温は低く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 花を良く観察して、観察した花の1割以上にアザミウマ類が見られる場合には、カウンター乳剤(I:15)等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センター(HP)に掲載中

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並（平年比86%：ほ場率、平年比61%：株率）。(±)
・ 向こう1か月の平均気温は低く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 天敵導入ほ場ではハダニ類の生息状況等をよく観察し、必要に応じて追加放飼を検討する。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。厳寒期の気門封鎖剤全面散布は、天敵に対して影響があるので注意する。
・ 葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**少ない**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない（平年比0%：ほ場率、株率）。(-)
・ 向こう1か月の気温は低く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
・ 発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
・ 発生初期に、セイビアーフロアブル20(F:12)等を葉裏によくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ [灰色かび病薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い（平年比220%：ほ場率、平年比133%：株率)
・ 向こう1か月の平均気温は低く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するコナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部（出入り口、側窓、天窗）に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
・ 黄色粘着板の設置によりコナジラミ類が見られた時はトランスフォームフロアブル(I:4C)等を散布する。
・ ウイルス病(黄化葉巻病)発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。

- ・ 耐病性品種であっても、ウイルス病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適正な防除をする。
- (4) 備考
- ・ [防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。
 - ・ タバココナジラミは黄化葉巻病 (TYLCV)、黄化病 (ToCV) を媒介する。オンシツコナジラミは黄化病 (ToCV) を媒介する。

6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠
- ・ 現在の発生量は平年並 (平年比 105% : ほ場率、平年比 88% : 株率)。(±)
 - ・ 向こう 1 か月の平均気温は低く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対 策
- ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - ・ 葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるようにていねいに気門封鎖剤やダニオーテフロアブル (I:33) 等を散布する。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現 況	発生予想	作物名	病害虫名	現 況	発生予想
いちご	灰色かび病	少	少	トマト	うどんこ病	多	多
	アブラムシ類	やや多	やや多		黄化葉巻病	平年並	平年並
きゅうり	べと病	やや少	やや少		すすかび病	平年並	平年並
	うどんこ病	平年並	平年並	にら	白斑葉枯病	少	少
	褐斑病	平年並	平年並		乾腐病	多	多
	コナジラミ類	少	少				

○冬期のスクミリンゴガイ (ジャンボタニシ) 対策について

足利市・小山市・野木町の排水路等でスクミリンゴガイの生息が確認されています。スクミリンゴガイが見られている地域では、水稲作へ向けて越冬密度を下げる以下の対策を行いましょう。

- ・ 耕うんを行い物理的に破壊するとともに寒風にさらす
- ・ 水路の泥上げにより、越冬場所をなくし越冬個体を減らす

[スクミリンゴガイに注意しましょう](#)を当センターHPに掲載中。

○外来害虫トマトキバガについて

令和 3 (2021) 年 11 月、外来害虫の本種が国内で初確認されました。令和 5 (2023) 年 1 月現在、12 県で発生が確認されています。栃木県における発生は確認されていませんが、飛翔による分散や苗類等を介して本県での発生が懸念されます。発生が疑われる場合はお近くの農業振興事務所又は当センターまで御連絡ください。

「[トマトキバガに注意!](#)」を当センターHPに掲載中です。

○果樹の整枝・せん定作業時には、罹病枝除去に留意しましょう。

農業は適正に使用しましょう

- 農薬は、容器のラベルをよく読んで適正に使用し、農薬の飛散 (ドリフト) にも注意しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 薬剤防除では、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

1 か月気象予報 (予報期間 1 月 21 日から 2 月 20 日 1 月 19 日気象庁発表)

向こう 1 か月の気温は低いでしょう。降水量、日照時間はほぼ平年並の見込みです。期間の前半は気温がかなり低くなる見込みです。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温	60	30	10
降 水 量	30	30	40
日照時間	30	40	30

詳しくは農業環境指導センター (Tel 028-626-3086) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせは、ツイッター「[栃木県農政部 \(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。

